

## 口腔解剖学 (含歯型彫刻)

<b>講師</b>	小山田 常一 北野 正孝	<b>実施時期 単位数</b>	第1学年後期 3単位 (45時間)	<b>実務経験</b>	○
<b>一般目標 (GIO)</b>	顔面、口腔およびその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する基本的知識を習得する。				
<b>授業概要</b>	ヒトの口腔周囲の構造(歯の形態を含む)について教授する。基本的に系統別に授業を行うが、適宜局所解剖の観点からの説明を行う。(1~15) 石膏棒を彫刻して歯の模型を作成し、歯の形態の立体的な理解を深める。(16~23)				
<b>学習方法</b>	講義・DVD視聴・実習				
<b>成績評価の方法</b>	定期試験、出席状況等により総合的に評価する。(筆記試験90%、出席状況10%) 模型を解剖学的観点から採点する。(100%)				
<b>教科書</b>	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 医歯薬出版				
<b>履修上の注意</b>	口腔解剖学、さらには他の多くの科目を学ぶ上で基礎となる科目である。 積極的な質問・議論を通して十分な理解が望まれる。				
<b>参考書</b>	全国歯科衛生士教育協議会(監) 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1「解剖学・組織発生学・生理学」医歯薬出版 歯の解剖学(金原出版)、分担解剖学(金原出版)、解剖学カラーアトラス(医学書院)				
<b>実務経験のある教員 (概要、科目との関連性)</b>	(小山田)臨床現場での歯科医師の経験を活かしながら、専門領域である頭頸部の運動器系、循環器系、神経系、内臓系および歯牙形態に関して講義を行う。 (北野)歯科医師免許を持つ。歯科医療の原点である歯牙の形態について修得する為の実習を行う。				

### 授業計画

[1~15 : 小山田常一、16~23 : 北野正孝]

No.	授業項目	到達目標 (SB0s)
1	口腔を作る骨 I	顔面ならびに口腔を構成する骨を概説できる1。
2	口腔を作る骨 II	顔面ならびに口腔を構成する骨を概説できる2。
3	口腔領域に存在する筋肉 I	頭頸部の筋の構成と機能を概説できる1。
4	口腔領域に存在する筋肉 II	頭頸部の筋の構成と機能を概説できる2。
5	口腔領域に存在する脈管 I	頭頸部の脈管を概説できる1。
6	口腔領域に存在する脈管 II	頭頸部の脈管を概説できる2。
7	口腔領域を支配する神経 I	頭頸部の神経を概説できる1。
8	口腔領域を支配する神経 II	頭頸部の神経を概説できる2。
9	口腔領域の内臓 I	口腔領域の内臓を概説できる1。
10	口腔領域の内臓 II	口腔領域の内臓を概説できる2。
11	歯の形態ならびに構造 I	歯種別の形態と特徴を説明できる1。
12	歯の形態ならびに構造 II	歯種別の形態と特徴を説明できる2。
13	歯の形態ならびに構造 III	乳歯の形態と特徴を説明できる。
14	歯の形態ならびに構造 IV	歯列と咬合を概説できる。
15	まとめ	歯の異常形態を概説できる、他。
16 17	趣旨及び方法の説明、上顎中切歯	形態と機能を歯型彫刻をすることにより学習する。 歯牙を見て、即座にいずれかを判断できることを目標とする。
18 19	上顎犬歯、上顎第一小臼歯	
20 21	上顎第一小臼歯、上顎第一大臼歯	
22 23	上顎第一大臼歯、下顎第一大臼歯	